



何を見て暮らすか考える

家づくりにおける琉球風水実践法 部屋別1

琉球風水で心地よい家づくり

執筆／横川明子
(琉球風水スクール「アムリタ」主宰)

今回から、家づくりをする際に考慮したい、風水の視点からみた各部屋のポイントをお伝えしていきます。最初に解説する部屋はリビングです。

家づくりをする際はまず初めに、「どんな暮らしがしたいのか」をよく考えることが大切です。その上で、家族が集まるパブリック空間を中心に考えていくと良いでしょう。

開口部を大きくとる

リビングは陽の気をとるため、開口部を大きく取るべき空間です。窓の外に何が見えるかも重要ですので、庭も住宅の一部と考えて家づくりをしましょう。土地が持っている性質を生かし、どちらの方向を向き、何を見て暮らしたいかを、最初の時点でよく考えてください。

リビング設計における6つのポイント

現在住んでいる家のリビングの現状を見て、下記のポイントがどうなっているか、自分なりに分析してみてください。すべてを実践しなくてもいいから、とらわれずに、できることを一つでも取り入れてください。

ポイント①

何を見て暮らすかを考える

リビングの開口部から花や緑など、いつも美しい景色を眺めて暮らせるように配慮すると、毎日がより豊かになります＝上写真。

ポイント②

リビングは南側の陽の方位と相性よし

北側のリビングや南側に窓がない場合、色使いや照明で明るく活気が出るよう室内環境を整えます。

ポイント③

玄関からの動線が良い配置に。ただし、玄関からリビングが丸見えにならないように

プライベート空間を通過せずに、玄関からスムーズにリビングに入ることができるような動線が理想です。ただし、玄関ドアを開けると同時に、リビングが丸見えになってしまうような造りですと、落ち着きません。視線を遮ることができるよう、穏やかな仕切りは必要です。ヒンプンのイメージです。

ポイント④

収納スペースを確保し、モノの「見せる」「見せない」をきちんと分ける

モノもたくさん集まってくる場所なので、大きいものから細かいものまで、しっかり収まるスペースが必要です。暮らしの中で使うモノは隠す収納を心掛けると、空間がすっきり見えます。また、パブリック空間ですので、ディスプレイ専用スペースをつくり、毎日が楽しくなるよう飾りつけをしましょう。見せるモノか、見せないモノか、モノの役割を区別することがポイントです。

家族愛深め、人集まるリビング

住んでからをイメージ

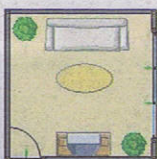
リビングは、家族の愛情運に加え、来客をもてなす場でもあることから、社交運・交際運をつかさどる空間です。リビングが心地よければ家族が自然と集まり、心が明るくなつて、毎日を笑顔で過ごすことができます。おもてなし空間としても意識して整えることでお客さまも多くなり、外から良い気が運ばれてきます。

リビングの設計における具体的な琉球風水の実践法を、6つ紹介します(左囲み参照)。家具のレイアウトや毎日の片付け、掃除など、住み始めてからの暮らしを具体的にイメージすることにより、良い氣の流れる空間づくりに必要な要素を、設計の時点で組み入れることができます。リビングに風水を取り入れて心地よい空間を整え、家族の愛情運や社交運・交際運を良くしましょう。

|| 毎月第3週に掲載

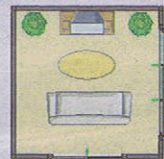
ソファのレイアウト

好ましい配置例



ソファは壁を向き、入り口から入ってくる人が見えて安心。

好ましくない配置例



ソファの背後に入り口があり人が入ってきてても分からない。

ソファの背後は壁で保護され、背後が無防備になり、悪い氣を背中受ける。

資料提供／横川明子

ポイント⑤

入り口が見える位置に座る

ソファはできるだけ壁を背後にして、入り口が見える位置に座ります＝上図参照。間取りの関係やソファを複数置く場合など、すべて好ましい配置にするのは難しいですが、背後に入り口がこないように気を付けてください。

ポイント⑥

毎日の掃除を楽にする配慮

毎日のこまめなお掃除が必要な部屋です。お掃除をロボットに任せるのであれば、床の段差をなくしフラットにすると、スイッチ一つでお掃除できます。また、水拭きのできない素材は、お掃除が難しくなりますので、家事に負担がかからない建材を選ぶことも大切です。

よこかわ・あきこ / 東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。講師や新築住宅などの風水鑑定を行っている。☎098-943-6948 (受付時間/月～金10時～16時、土日祝休み)。ホームページ <http://aromarine.jp> ブログ <http://ameblo.jp/marine-sapphire/>

